

I. 学年通信を通しての総合人間科 —中1学年通信「Poco a Poco」から—

矢木 修・中村明彦

(1) 学年通信を通しての学年経営

矢木 修

【抄録】 学級、学年経営の上で、学校の方針を家庭に理解してもらうことは大変重要なことである。生徒の健全な成長を願うとき、学校と家庭が連携して指導にあたることが不可欠である。学校で起きていることを家庭に知らせる一つの手段として学年通信がある。この学年通信を学校から家庭への一方通行的なものとしないうで、家庭から学校への要望、あるいは思春期の子どもを持つ親の悩みなどを掲載する内容とすることによって、親に精神的安定感を持たせられるとの思いから、学年通信の役割などを考えてみた。

【キーワード】 学年通信、学年経営、生活指導、学校と家庭との連携

1. はじめに

平成8年度、中学1年の学年代表をする事になった。校務分掌は指導部長である。平成8年度以前、指導部長はどの学年にも属さないで、全校的な視野で生徒指導にあたっていた。しかし、平成7年度より、本校が研究開発指定校に委嘱され、研究部長の職務が相当重くなったため、平成8年度より、少なくとも研究開発に取り組んでいる間は、研究部長を学年からははずし、それまで学年からははずれていた指導部長を学年付きにする事となった。

中学校は各学年2学級で、正担任2人、副担任2人の計4人で学年経営をしていく事になった。学年で、研究開発の研究企画担当、生徒指導担当、学年会計担当、学年通信担当と、それぞれの役割分担をし、4人で協力して中学1年を運営していく事になった。そして、筆者は学年代表として学年通信を担当する事になり、全体的な立場で学年経営をしていく事になった。そこで、如何にして学年通信を学年経営に役立てたら良いかいろいろ考えてみた。

それまでも、学級通信、学年通信を発行して、学校での生徒の動きを積極的に家庭に連絡している学年もあった。しかし、それらはどちらかと言えば、学校から家庭への一方通行的な通信が多かったように思える。筆者自身校務分掌として指導部長を数年間経験してきた中で、生徒達の健全な成長を願うためには、学校と家庭との連携が非常に重要であると強く感じてきた。そこで、今まで一方通行的な学年通信を、何とかお互いの考えをぶつけ合える場、同じ悩み等を打ち明け合える場によって、相互理解を深め合い、学年全体が、明るく、伸び伸びとした雰囲気になるよう努め、そんな中で生徒達が健全に成長していってくれる事を望んだ。

2. 学年通信の内容

学年通信のタイトルは、この学年が少しずつ、でも一步一步確実に前進していくようにとの願いから、スペイン語の「少しずつ」という意味の「Poco a Poco」とした。

B4サイズで毎週金曜日発行の週刊号とし、内容は、その週にあった出来事の概要、次週の予定、そして残りを我々担任団が日頃思っている事や、何か行事があれば生徒の感想文、また保護者の方の意見、思春期の子どもを持つ親へのアドバイス等を取り上げる事とした。



皆さん、入学おめでとう。今年さんは中学校生活の始まりに、期待と不安で胸一杯の事と思います。少しでも早く不安をぬぐえるように、早く良い友達をつくり、協力し合ってがんばっていきましょう。

これから週に1回の割合(できれば)で学年通信「Poco a Poco」を発行していきたいと思っています。この題はイタリア語、スペイン語で「少しずつ」という意味です。本来用途にも使われています。この日本語の意味とおり各学年に、何事も「少しずつ」しかし、確実に進んで行ってほしいという願望のもとにこの題を定めました。

1週間の予定、担当する先生方の話題、生徒諸君の話題、保護者の方々の記事等工夫していきたいと思っておりますので、期待して下さい。あわせて協力をお願いします。

第1号は担任(A組 鈴木克彦、B組 中村明彦)の自己紹介です。

A組担任 鈴木 克彦

新一年生のみならず、ご入学おめでとうございます。入学式の日は、こんな晴天に恵まれてよかったですね。

期待し胸膨らみながらも少しの不安が入り混じる心境かと思いますが、リラックスして本来の自分を出発してください。

息事な私が、私も中1の長女をもつ親でもあります。親の気持ちと、教師の気持ちを合わせて1年間を皆さんとともに過ごしていきます。

はじめまして!

中学1年B組 担任 矢木 修 岡田 隆彦
(体育科教師)

「プロフィール」

生年、電話32121225(307)
身長:173cm 体重:71kg 血液型:O型
家族、妻(27歳)・長男(4歳)・次男(2歳)
趣味、ハンドボール、スキー、ライクシング
特技、7-11のアルバイト(4時〜10時)

期待と希望の入り交じった新しい中学校生活が始まります。

中学1年B組も今日から出発します。担任として「O a P a P o」は「多色」を合い言葉にして、全員白紙の状態でこの学校生活でどんな色を付けていってほしいと思っています。そのためにまず「自分は生かされていることを理解した上で自分を生かす努力をしてほしい」とことです。

何事にも努力を惜しまず一生懸命に取り組むことをまず期待しています。

これから1年 ヨロシク

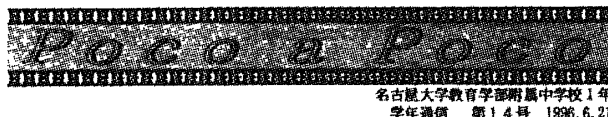


地域の学校であれば、子どもが逐一家庭で学校の様子などを報告しなくても、兄弟の関係から、隣近所の世間話の中から、何となく学校の様子が分かるものである。しかし、広域から通っている学校環境から、保護者において、学校とのつながりは、学校便り、学年通信などと、わずかな手段しかない。

保護者としても、少子化が進んで今日では、第1子の教育問題に関して、少なからず不安を抱いてい

るものである。でも、その不安が自分一人の悩みなのか、それとも、一般的な悩みなのか良くわからないという不安もある。

そんな中で、このような学年通信を発行する事は、保護者に不安感を払いのけたり、いろいろな人達の考えを参考にできるということで、かなりのメリットを持っていると思える。

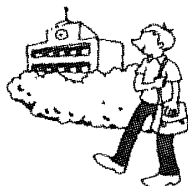


今まで実習生でにぎやかであった学校も、教育実習が終わって実習生がいなくなり、何か急に淋しくなったような気がします。生徒達も元の先生に戻り、安心?していいやら、また優しい先生の先生がいなくなって淋しいやら、ちよっと戸惑っているような感じもします。

さて、月曜日は第1回学年保護者会を持ちました。今回の様子は後述しますが、私どもの準備不足もあってか、新角燕も暑いなかお出かけて頂いたのに、なかなか多くの皆さんからご意見が出ていくような会になって申し訳ありませんでした。こんなことなら次回からもう学校に足を運ばないという事のないよう、これからも積極的に足を運んで頂いて、附属学校が少しでも良くなるようにご協力下さい。2学期以降学校委員の方とも相談して、皆さんの意見が出しやすいような会にしていきますので、良案がありましたらどんどん学級委員の倉持様(B組) 西村様(A組)の方までご連絡して下さい。

来週の予定

- 8/24(月)
- 25(火)
- 26(水) 期末テスト時間割発表
- 27(木) 朝礼
- 28(金)
- 29(土) 第5回総合人間科(発表)



8/17(月)に第1回中1学年保護者会が開かれました。約50名の方に出席して頂きました。まず各クラスの近況報告を担任の方からしました。

[A組]・クラスで起こっている盗難事件について、友達どうしてきつい言葉で言われ悩んでいる生徒がいること、・暗い話題ばかりではなく文化祭へは頑張って取り組んでいること、・朝の会ではクラスの歌を作って歌っていること、等の話がありました。

[B組]・何か物が無くなった時、すぐ盗まれたと言ってくるが、そんなことを言わないでもう一度よく探してごらん。クラスの仲間にはそんな悪いことをする子はいないよ。みんなを信じよう。2~3日たつと突然無くなった物が出てきたことが2~3例あったこと、・シャツの置き忘れ等自分の物をしっかり管理できない子がいること、・提出物がなかなか出揃わないこと、・体調を崩し保健室に行く生徒が増えたこと、等の話がありました。

矢木より盗難について、他校の例も出しながら、女子は多くの生徒は鞆に財布を入れているため男子より被害が多いこと。多額のお金を持ってこないようには、学校では貴重品の管理をしっかりするようになど、学校全体の様子など話しました。

中間テストについては、特に顕著な特徴として、A組は女子が上位を占めていること、はやり授業中の姿勢が結果に影響していること。今回は基本的な問題が多かったので、こんな簡単なものならと油断すると、次回からは困る。規則正しい自学習が必要であること等の話をしました。また、総合人間科で今取り組んでいる様子の話をしました。今まとめているが、うまく文章にまとめられない子もいて、何か他の方法でもうまく表現させる事はできないか検討中であることの話をしました。最後に時間もあまりありませんでしたが、奇しななみ、ウォークマン等の持ち物、ピアス等の問題等について話し合いました。

さらに総合人間科の内容を保護者に理解してもらうためにも、この学年通信は大きな役割を果たしたといえる。

中学1年生としての総合人間科の取り組みは、学年テーマを「出会いから学ぶ」一人と地域から生き方を探る一とし、まず最初は身近な人との出会いから学ぶとし、小学校の先生、塾の先生、父親、母親、祖父、祖母・・・など身近な人から、今までの生き方、自分達に対するアドバイスなどを聞くことによって、これからの自分を考えさせることとした。そのためには、まず保護者にこのような学校の取り組みを十分に理解してもらう必要があった。さらに、途中で生徒達が具体的にどのような取り組みをし、その結果どのような感想をもち、総合人間科に取り組

A組4班ノートより「私は人間がいなくなった方がいいと思う」

人間は自分の住んでいる地球をこわしている。原子爆弾実験、戦争、森林伐採、フロンガス、公害病、地球温暖化、酸性雨、CO₂、etc など自分の首をしめてるとしか思えません。地位や顔の色だけで差別したりします。第5福龍丸の水爆実験その週を知っていますか。船員全員が被爆し、船員1人が死にぞわに「原爆の死者は、私一人で最後にしてほしい。」と言いました。多分それは無理でしょう。近い将来核戦争が起きるでしょう。しんきろうのように、人間は自分たちに都合の悪い物をつくり、都合のよい物を失っている。果たしてこれでいいのだろうか・・・人間の都合によって他の生物を殺していいのだろうか。トキや日本オオカミや西表山猫や白サイや象・・・etc。人間いなくなったら他の生物はもっとすこしやすいだろう。と私はつくづくそう思う。人間は他の生物の邪魔しかしてないと思う。

学年保護者会の折り、1年の学年代表B組の倉持様とA組の常任委員西村様に原稿をお願いました。快く引き受けて下さいまして有難うございました。

1 B 倉持雅子様

一昨日、「Poco a Poco」に何か書くようにとの依頼を受け、それからずっと自分の中学1年生時代を思い出そうとしてみました。初めて習った英語がきっかけで外国のことに興味をもったこと、切手収集という趣味をもち切手のことなら何でも知っているという友だちに出会いびびくりしたこと、クラブ活動などを通って友だちの存在が急に大きくなったことなど次々にいろいろなことを思い出しました。私たちの時代と今とは違う点もあるでしょうが、勉強や友だちのことを含め、学校生活全般、自分の身の回りごと、自分自身のことなどについて、困ったり、驚いたり、悩んだり、嬉しかったり、悲しかったり・・・などなど、いつの時代でも中学生として共通することは沢山あると思います。ですから、子どもたちと何でもいっしょに話してあげたいと思うのです。少なくとも「〇〇しなさい!」といういい方だけはやめたいと思っているのですが・・・。

1 A 西村幸村様

私の中学校生活は、校間に縛られた毎日と、1点でも多くの内申点を取る為の受験勉強。全てが高校入試という厳しい競争を勝ち抜く為の生活だった様に思う。そんな虚しい思春期を過ごした訳から、嫌に一度しか通ってこないの時を、私と同じような過ごし方で終わって欲しいはなかった。高校入試がなく且つ自由な校風の当校へ入学を希望したのである。

願いは叶い希望に胸躍らせ入学して三ヶ月。子供たちには底すぎる色々な問題がもちあがり、学校・保護者それぞれに心を痛めているのが現状である。「自由」という名のもとに何をしても許されると思っている子供、校期に無いのでそれ以上厳しく言及できない統一見解をもたない学校、そして学校に一任してしまっている保護者。今回問題とされている事柄は、各々の自覚の甘さの現れだとはいえないだろうか。

本来「自由」という事はとても素晴らしいことで、裏返せばそれだけ信頼され、任されているという事である。生徒の自主性を尊重し個性を認めてくれる、そんな学校に通うことが出来る自分に自信と誇りを持ち、「自由」という事を履き違えないで欲しい。

時代は移ろい、人々の価値観も多様化し、生きていくのが大変な時代である今、昔何らかの形で心の叫びを発しているのだと思う。子供のそんな信号をいつでも受け止めてやれるよう、先生方と二人三脚で進んでいくべきである。そして、どんな時代であっても、人間として最低限守らなくてはならないモラルは、変わりほしないということを毅然たる態度で示していくべきである。

んでいるのかを、知ってもらった方がより効果的な学習の取り組みができると思った。そのために、総合人間科の授業を行ったときは、まずどんな取り組みをし、それに対して生徒達がどんな感想をもったか、さらに今後どんな取り組みをしていくのかを、学年通信を通して保護者に伝えてきた。また野外学習に行けば、そこで相手からどんな感想をもらったかも極力掲載して、保護者から生徒達にこれからの生き方に対して、適切なアドバイスをしてもらうような、総合人間科への協力を呼びかけた。

Poco a Poco

名古屋大学教育学部附属中学校1年
学年通信 第17号 1986.7.12

月曜日には、球技大会がありました。バレーボールの試合でA B対抗で行ないました。女子のゲームは、どちらかといえばサーブが入れば決着がつくという感じでした。男子は、意外にも（意外というと男子に叱られてしまいますが）ラリーが続くではないですか。面白かったですね。結果は総合でA組の勝ちになりましたが、A、B組両者共に失敗した人を責めるでもなく「ドンマイ、ドンマイ」で、お互いをカバーしあいながらのいい試合でした。

いよいよ、1学期も残すところ来週のみになりました。1学期には、初めての総合人間科の授業、教科ごとに先生の変わる授業、地下鉄、バスを使った通学、お母さんの心こもった弁当、部活での先輩との関係などいろいろな事がありました。自分の生活を振り返って、良かったところ、直したほうが良かったところと反省するところをはっきりさせて2学期を迎えましょう。夏休みの課題については、次号でまとめます。

来週の予定

7/15 (月)	1課 2課 3課	1課 2課 3課	午後 演劇鑑賞 弁当必取
16 (火)	A 1課(離) 2課 3課	B 1課 2課 3課	午後 保護者面談
17 (水)	組 1課 2課 3課(離)	組 1課 2課 3課	午後 保護者面談
18 (木)	1課 2課 3課	1課 2課 3課	午後 保護者面談
19 (金)	1学期終業式		
20 (土)	休日の夏休み		

A組の保護者の方より、生活指導の在り方についてご意見を頂きました。盗撮、偽造テレカ、ピアスと、我が家でもつばらの話題だったものが、学年懇談会でも話の中心となりました。

盗みや偽造テレカの使用といった行為は、校則レベルの問題ではなく、法で規定される基本的な義務違反です。また、ピアスやウォークマン、ポケベルの携帯は、家庭での判断が優先されるべきもので、学校に是非を問う事柄ではないと思います。これらの事がきっかけで、校則の強化(?)が云々されるというのは困ったなあというのが私の感想です。

ただ、現在進行形で繰り返される違法行為や、被害にあった生徒の気持ちを思うと、思春期・反抗期真っ只中の子どもを持つ親としては、平静でいられないのは当然です。懇談会でも出たご意見、ご質問も、痛みを感ずる親の心の反映だと受け取りました。

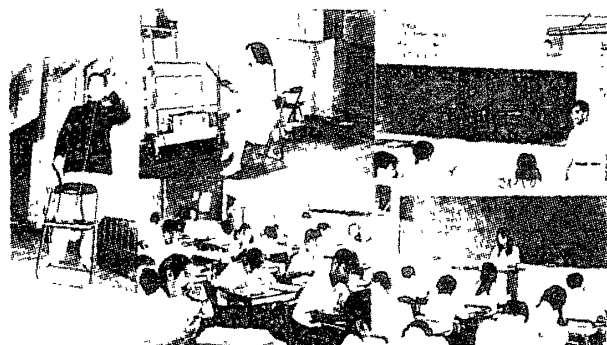
しかし、こんな時、親が存き足立ってはいけません。匿名高い管理教育愛知の公立小学校へ6年間子どもを遊ばせ、批判していた昔の管理教育=人間性の脚注という事態を、自ら求めてしまうことだけは避けなければと思います。

幸い、懇談会の折、矢木先生から「禁止句は使っても効果はない、むしろ反発を招くだけで使いたくない。」旨のお話を伺って、こうしたお考えで対処して下さるならと安堵しました。

また、盗撮事件について、頭に「クラスメートの中に盗んだ子がいたらどうする?」と聞いてあげてみたら、「盗んだものを返して、二度としなければいいんだ。ずつと友達だよ。当たり前じゃない。みんなそう思っているよ。」という答えが返ってきました。

鈴木先生のご指導に感謝するとともに、子ども達は結構健康で強靱な精神を持っているんだとうれしくなりました。

こうした現実をみつめ、先生方のご助言を賜ながら、子ども達を導いて、共に成長して行きたいと願っています。



今回は、総合人間科の授業風景、先日の球技大会のスナップ写真を載せてみました。左：訪問調査寸前による事前指導 生徒役の中村先生、真ん中上：小学校の先生役の原先生、右上、真ん中下：A組の調査研究発表会、右下、B組の調査研究発表会。調査研究発表会は6月29日と7月6日の2回に分けて行ないました。写真にもありますように、お父さん、お母さん、お祖父ちゃん、お祖母ちゃん、小学校の先生、他の先生など、多面にわたっていました。A組ではそれぞれの発表に対して、多くの質問がなされ、2回の発表会だけでは全員出来なく、別の機会も設けられるほど活発でした。B組では、みんな静かに他の人の発表を聞くことができました。また、各自がこの訪問を通じて、それぞれ各自の将来について、どのような生き方をしたら良いのかおぼろげながらも考えていこうとしている姿勢が見え感心しました。

右の写真は球技大会のスナップです。A B共に白熱したゲームでしたが、カメラマンの技術が悪く、かつこいい瞬間をとらえられなくて残念でした。



4. 担任のつばやき

数回にわたって担任から、学級の様子などを含め、担任のつばやきを掲載した。これによって、担任の人となり、また学級の様子もかなり、保護者に理解してもらえたのではないかな。

- 5/2 5号 鈴木 クラスの様子
- 中村 1ヶ月間の校長先生の話のまとめ
- 5/24 9号 鈴木 道徳俳句・川柳講座
- 5/31 10号 中村 学級模様一ひとほだ脱ぐ行為一
- 7/9 18号 鈴木 1学期を終えて
「心を痛めるある中学担任」
- 中村 1学期を終えて「思いやりの心」
- 9/2 19号 鈴木 先生の夏休み
- 中村 夏休みそして2学期の始まり
- 9/13 21号 鈴木 9月に入って2週間過ぎました
- 中村 学級模様一力いっぱいやる演技一
- 10/11 25号 鈴木 盗難がまだ続いている
- 10/18 26号 中村 後期に向け出発
- 11/8 29号 鈴木 そうじをめぐって男女の対立
- 11/16 30号 中村 朝の様子
- 12/6 33号 鈴木 冗談?

- 12/20 35号 鈴木 臨時保護者会から
- 中村 中日新聞「中日春秋」の記事より
- 1/8 36号 鈴木 新年を迎えて
- 中村 新しい年が始まった
- 1/24 38号 鈴木 川柳が語る中1 A
- 1/31 39号 中村 授業開始直前の学級模様
- 3/19 46号 鈴木 最後の最後まで
- 中村 中1 Bの掲示物

副担任

- 4/26 4号 矢木 チェルノブイリ原発事故に思う
- 6/14 13号 矢木 20?年前の教育実習
- 原 かんぴょうの思い出
- 7/5 16号 原 フィールドワークの発表会を聞いて
- 9/2 19号 原 2学期に向けて
- 9/6 20号 矢木 夏の思い出?
- 10/11 25号 矢木 父権の復活
- 12/20 35号 原 冬休みを前に
- 1/17 37号 原 年末年始の恒例行事
- 3/19 46号 原 贈る言葉
- 矢木 1年を振り返って

5. 学年通信と生活指導

筆者自身、中学1年の学年代表であると同時に、校務分掌では指導部長である事から、この学年通信の内容もかなり生活指導的な面が多くなってしまった。

- 4/26 4号 学級保護者会の様子・いじめ問題
- 5/21 8号 生徒の生活実態調査結果
- 5/31 10号 盗難問題 (鈴木)
- 7/12 17号 生活指導の在り方 (保護者より寄稿)
- 7/19 18号 夏休みの生活心得 (対生徒、対保護者)
- 9/ 6 20号 「生活指導」に対してのアンケート結果から
- 9/20 22号 盗難問題
- 10/ 4 24号 思春期「心のなやみ」(暮らしの手帖)
- 10/11 25号 ♪ 「ドラッグ」
- 10/18 26号 ♪ 「女の子のなやみ」
- 10/25 27号 ♪ 「男の子のなやみ」
- いじめ問題 (文部省：児童生徒の問題行動に関する調査研究協議会資料より)
- 11/ 1 28号 人を傷つける言葉
- 11/16 30号 テレクラ問題
- 11/29 32号 学習に関する悩み (悩み相談室より)
- 12/ 6 33号 学習に関する悩み
- 12/13 34号 思春期の子どもが納得するアドバイザーになるための10の姿勢
- 1/17 37号 「こんな親が問題児をつくる」
子どもをダメにする親-12のタイプ
- 1/31 39号 「こころの電話」の相談内容から
- 2/ 7 40号 周りの友達の良いところを見よう
- 3/ 7 44号 図書紹介「生きること・学ぶこと」

以上のように筆者自身の言葉によるアドバイスは、なかなかうまくできなかったけれど、思春期の子どもを持つ保護者の悩みを、何らかの形でサポートできないか、筆者自身が同世代の子どもを持つ親として、親としての生き方について、何らかの指針なるものが得られるのではないかと、現代の抱えている社会問題をも含め、参考になる話題を提供してきたつもりである。

6. 終わりに

当初、この学年通信が、教師、生徒、保護者の意見交換の場となるよう予定していたが、思惑通りにはいかなかった。しかし、我々教師集団の個々のつぶやきなど掲載する事によって、かなり学級経営の方向性を理解してもらったのではないかと思う。だから、少なくとも保護者から、何とかして欲しいというような苦情? 要求は出てはこなかった。

中学1年という時期だから、保護者の理解も得ら

れたのかもしれない。というのも高学年になればなるほど、生徒にとって都合の良いものしか家庭に伝わらない事が多いからである。というわけで学年通信などは高学年の生徒にとって、家庭に見せるべき物と考えなく、自分で処分してしまう事から、学校の願いが家庭に伝わらない事が多い。よって編集者としては、生徒にとっても、また保護者にとっても興味の沸く内容にするよう心掛けなければならない。

結局1年間で46号まで発行する事ができたが、これは予想以上のものであったと自負している。これも保護者の方の、学年通信「Poco a Poco」に寄せていただいた期待と、実際に投稿していただいた保護者の方、さらに鈴木、中村、原の中1担任団の協力があつたからできたものと感謝している。



名古屋大学教育学部附属中学校1年
学年通信 第27号 1996.10.25

朝夕かなり涼しくなってきました。今のところ特に体調を悪くした人はいませんが、これからは健康面に十分気をつけて生活してほしいと思います。
昨日、11月5日のPTA研修会についてのご案内をしましたが、研修会後の学年保護者会については、今のところ「11月15日の野外学習について」「最近のクラスの状況」等を予定しています。これをクラス別に行なうか、全体合同で行なうかについては流動的なところがあります。B組では研修会前日に懇親会を図書館で行なう予定です。A組はこの日の内容によって今後クラス懇親会を計画される予定です。一般論ですが最近の生徒達の生活についていろいろなことが言われています。学校だよりや、このPoco a Pocoの裏面でも「思春期の悩み」なども掲載してきました。そんな事も含めて子ども達の生活の悩みや、また逆に体験から参考になるお話を、気軽に情報交換できたらと思っていますので、ご多忙の中多数の方に参加して頂ければと思っています。学校からの一方向でなく、学校の方針にもご理解いただき、さらに私達に積極的にご意見を頂ければと思います。

来週の予定

- 10/28 (月)
- 28 (火)
- 30 (水)
- 31 (木) 朝礼
- 11/ 1 (金)
- 2 (土) 第1回総合人間科



文部省の「児童生徒の問題行動等に関する調査研究協力者会議」から「いじめ」に関しての啓蒙パンフレットが学校宛てにきました。2年前の大河内君の自殺事件を契機に、いろいろなところで「いじめ」問題が取り上げられるようになりました。もっともそれ以前にも「鹿川君事件」等もありましたが、特に大きくクローズアップされたのは大河内君事件だと思います。本校でもその時にアンケートしましたが、深刻な問題は当然表面には出てきませんので、実質はどうか分かりません。無いことを期待していますがどうでしょう。次にその啓蒙パンフレットをのせておきますので、一度ご家庭でこの問題を考えてみて下さい。

文部省 児童生徒の問題行動等に関する調査研究協力者会議

保護者の方へ

**家庭が、学校が、
地域社会が、
「いじめの問題」で
問われています!**

いじめの問題は、家庭、学校、地域社会がそれぞれ異なる役割を十分に果たし、一体となった対応を行っていかねばなりません。そして、世界を動かす子どもたちの成長を社会全体で支援していくために、今こそ私たち一人一人が行動するときです。是非、いじめの問題に対する基本的な認識をしっかりと持ち、とめておくことから始めましょう。